

## 臨地実習での教員の教授活動 －教員の伴走者モデル－

田村美子，清水暁美，内田史江，荒井葉子，西岡美作子，橋本和子

福山平成大学看護学部看護学科\* 〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸 117-1

### A study of caring in practical training places -Analysis though mutual act scene that identifies nursing-

Yoshiko TAMURA , Akemi SHIMIZU , Fumie UCHIDA  
Yoko ARAI , Misako NISHIOKA , Kazuko HASHIMOTO

Faculty of Nursing, Fukuyama Heisei University, 117-1 Shoto, kamiwanari, Miyuki, Fukuyama-city, Hiroshima(〒720-0001)Japan.

#### 要 約

臨地実習での学生の学びは教員の力量に影響され、臨地実習で学生に指導している教員は、より教育的な実習指導を行うことを期待されている。実習指導に初めて携わる教員は、実習環境の調整や学生との関わり方や教授方法に悩みや戸惑いを覚えることが多い。

SCQRM（西條 2007）をメタ研究法として、モデル構築に適した修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて経験豊富な教員の臨地実習での教授活動を明らかにした。臨地実習での教員の教授活動は、看護観と教育観に支えられており、「叱咤激励」「歩調を合わせた学習」「看護師としてのアイデンティティの形成」「共に看護の意味を考える」「看護実践に向けた支援」があった。看護教員は、看護師への夢と目標に向けて伴走者としての役割をしていることが浮き彫りになった。

#### Abstract

Ability of nursing teachers affects how much students learn through nursing practice, so teachers are expected to provide practical training that is most instructive. Many nursing teachers who get involved in practical training for the first time tend to feel worried and confused about adjustments of the training environment, how to deal with their students, or the teaching methods. For this study Structure Construction Qualitative Research Method (SCQRM, Saijo 2007) which aims at generating hypothesis was used. The Revised Grounded Theory Approach (Kinoshita 2003) was used for analysis. The result shows the teaching activities the most experienced teachers perform in nursing practice.

Teaching activities in practical training have been supported by outlook on nursing

and outlook on education. “They include practice of giving pep talks”, “helping students learn in tandem”, “helping establish their identities as nurses”, “thinking together about the meaning of nursing” and “supporting them in preparation for actual nursing”. The findings highlighted that nursing teachers play a role as escort runners and lend support to students for their dream and goal of becoming a nurse.

キーワード：臨地実習，看護教員，伴走者

Key Words : Nursing practice, Nursing teacher, Escort runner

## I. 緒 言

看護教育において，臨地実習は，看護実践能力の育成のために極めて重要な学習の場である．臨地実習における学生の様々な経験をしっかり意味づけし，その場で起きている現象を明らかにすることが必要である<sup>1)</sup>．臨地実習は，知識や技術だけでなく，看護者としての必要な人間性など多くのことを学ぶ重要な学習の場である．臨地実習での学生の学びは教員の力量に影響され，臨地実習で学生に指導している教員は，より教育的な実習指導を行うことを期待されている．

臨地実習での教員の教授活動には，学生の学習活動，教員の教授活動，クライアントへのケアの質の保証を目的とした教員の活動，患者との関わりを教材化する<sup>2)</sup>などの役割がある．

臨地実習での学生の学びは，教員の力量に影響されるが，看護教員としての能力と資質形成は教員個人に委ねられている<sup>3)</sup>ことが多い．新人教員の多くが教員としての複雑，多様な役割や期待を受けるにもかかわらず，教育的に準備状態が整わないまま教育職に就いている<sup>4)</sup>現状がある．

初めて指導に携わる教員は，実習環境の調整や学生との関わり方や教授方法についての悩みや戸惑いを覚えることが多く，ストレスを抱えることが考えられる．臨地実習での教授活動をどのように取り組めばよいか，教員の教授能力を高めていくことが課題である．経験豊かな教員の臨地実習での教授活動の構造の一端を明らかにするためにモデルを生成し，臨地実習での教授活動に役立てる．

## II. 目 的

本研究は，経験豊かな看護教員が臨地実習における教授活動をどのように行っているのか，その構造の一端を明らかにすべくモデルを生成することを目的とする．

## III. 方 法

- 1) 対象者：本研究では臨地実習での経験豊かな教員の教授活動を明らかにするため，看護教員経験者8年～12年の4名を対象とした(表1)．
- 2) 倫理的配慮：対象者と対象者に関わる学生に研究倫理に配慮するよう紙面を用いて説明し，研究協力の承諾を得た上で臨地実習での妨げにならないように参加観察を行った．観察対象者となった実習領域担当の臨地実習指導者，病院関係者，看護部長，教育課長，

看護師長、看護師に了承を得た。研究者自身の言動に気をつけ、指導の妨げにならないようにした。カンファレンスや反省会など、許可を得た範囲で、ICレコーダによる録音を行った。知り得た情報についての守秘義務を遵守し分析においてはプライバシーや匿名性の保護に努めた。

- 3) データ収集法：データ収集期間は、2005年5月～10月。

臨地実習での教員の学生への教授活動を参加観察し、カンファレンスおよび反省会における会話をノート及びICレコーダで記録した。

- 4) 分析枠組み：本研究では仮説生成を目的としているため、その目的に照らし、インタビューデータをもとにボトムアップにモデル構築するのに適した（木下，2003）修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ<sup>5)</sup>（以下 M-GTA とする）を枠組みとして採用した。M-GTA はデータを切片化しないため文脈を大切にすることができ、分析手順も明確で優れた説明力があり、結果の妥当性を高めるように工夫されている。ただし、M-GTA には具体例が少ない概念は採用しないとといったように、本研究のような少数事例に基づく研究に適していない側面があるため、M-GTA を研究関心に応じて適宜修正しながら勧める枠組みが必要となる。

本研究は少数事例をもとに仮説生成を目的とするため、少数例でも科学性を担保し一般化を可能とする SCQRM (Structural - construction research method, 構造構成的研究法<sup>6) 7)</sup> (西條, 2005) をメタ研究法とした。SCQRM においては事例数や具体例の数がどれだけ必要かは、研究者の関心（研究目的）と相関的に決まると考えられている（図1）。

本研究の目的は、臨地実習での経験豊かな教員の教授活動をモデル化するため、四人から生成された概念についてもこの目的に照らして重要と考えられるものは採用していくことが可能となる。

- 5) 分析方法：収集した録音データと記録したメモから現象記述的な段階（テキスト）を作成した。それを SCQRM の分析手順に沿って概念を生成し、分析ワークシートを作成する。分析ワークシートとは、概念名、定義、具例、対極例や分析の視点を書き留める理論的メモからなるもので、1概念につき1ワークシートの形式で作成する。それらをカテゴリーにまとめつつ、臨地実習の教授活動に焦点化し、理論（モデル）を構築する。分析にあたっては、研究者間で繰り返しデータを分析した。

以下に生成した概念の一例を示す。テキストをみていくと「血栓のことが考えられましたか?」「今日患者さんをどのように見ていきますか?」「腹水穿刺そのものに対する侵襲はほとんどないけど、わかりますか?」ということから「深い注意力を持ち観察する視点」と概念を作成した。

またそれを、「受け持ち患者の症状の観察が、しっかり出来るように視点を教える」と定義した（表1）。

さらにいくつかの概念を包括する「カテゴリー」を作成した上で、概念やカテゴリーの関係を示しながら、「経験豊かな看護教員が臨地実習における教授活動」を構造化した

モデル（理論）を作成した．このようにして構築したモデルが、「図2：臨地実習の教員の教授活動-教員の伴走者モデル-」である．

- 6) 用語の定義：教員とは，看護師免許を所有し，看護基礎教育機関に所属して看護学に関わる学科目の教授活動を展開するものである．経験豊かな教員とは，教員経験が5年以上<sup>8)</sup>の教員である．

#### IV. 結 果

今回の研究において臨地実習での研究対象者は，看護専門学校と看護系短期大学，看護系大学の教員4人で，臨床経験は8年から20年あり，教員経験年数は8年から20年のキャリアであった．臨床経験と教員経験年数ともに豊かであった（表2）．

表1 分析ワークシートの例

概念名	深い注意力を持ち観察する視点
定 義	受け持ち患者の症状の観察が，しっかり出来るように視点を教える．
具体例	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血栓のことが考えられましたか？</li> <li>2. 今日患者さんをどのように見ていきますか？腹水穿刺そのものに対する侵襲はほとんどないけど，わかりますか？</li> <li>3. 安静の必要性がわかる？熱があるとか，痛みがあるとか，しっかり観察してください．</li> <li>4. 浮腫がきているようだから注意してみてください．</li> <li>5. 患肢の清拭をしていた時に，血圧が上がったのですか？</li> <li>6. 腹水穿刺そのものは，血液の採血とあまり変わらないです．ただ腹水を大量にとると体液のバランスが崩れるかもしれません．血性というのが気になりますね．</li> <li>7. いつもの心電図と比べてどうですか？いつもの脈は？モニターで単発的に出るのはいいのですよ．清拭のときは，脈は110で安静の時は70でした．・・・といっても脈と心電図で確認して心機能をみないかね．</li> <li>8. 前立腺肥大の症状は，どのようなものが出ていますか？患者さんの声の調子とか表情を見て話しをしてください．</li> <li>9. 前立腺肥大の症状はどのようなものが出ていますか？患者さんの声の調子とか表情を見て話しをしてみてください．</li> <li>10. これまで前からどのくらい変化として，今の倦怠感とか今の状態と比較してみるとよいですね．ウイルス量や抗体量をみましよう．</li> </ol>
理論メモ	・教員が学生に対して，受け持ち患者の症状や観察しなければならない視点を具体的に教える．

表2 研究対象者の属性

対象 (教員)	所属機関	教員経験年数 (年)	臨床経験年数 (年)	年齢	性別
A	看護専門学校	8	8	50代	女性
B	看護専門学校	11	15	40代	女性
C	看護短期大学	20	9	50代	女性
E	看護系大学	12	17	50代	女性

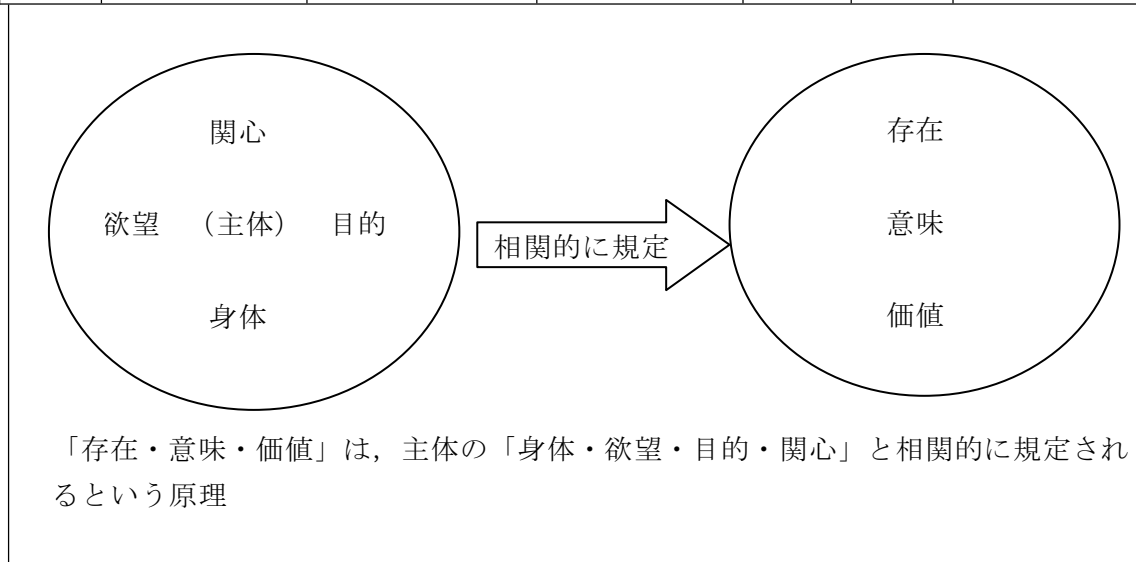


図1 構造構成主義の中核概念となる「関心相関性」

図2のストーリーラインを説明する。『 』はカテゴリー、【 】はサブカテゴリーを意味する。< >は概念を示した。

教員の伴走者としての役割には、「叱咤激励」として、学生が患者に洗髪をした後に、上手でしたよとく実施したケアを誉める>やく看護計画の内容を誉める>といった【誉めて認める】ということをしていた。血圧測定は服の上から測らないとく学習・技術の未熟さを指摘>し、頑張りましょう。(中略)しっかりみていきましょうく頑張れの励まし>の【叱って励ます】ことをしていた。『歩調を合わせた学習』では、浮腫がきているようだから注意してみてくださいとく深い注意力を持ち観察する視点>をしていた。痒みもあるし、自己導尿されているし感染を起こしてはいけないと思って、しっかり気をつけられていますとく教員が知り得た情報伝達>を伝えていた。受け持ち患者に対する検査用のパンフレットの説明を一緒に行ってしましようと、ひとり一人の学生に【歩調を合わせた学習】を提示していた。さらに『看護師としてのアイデンティティの形成』では、く礼儀礼節の大切さ>やしっかり食事をとって睡眠をとって体調を整えてくださいとく健康管理の重要性>を伝えていた。白衣はちゃんと清潔に扱ってくださいとく看護師として心配り>などの【看護師としての資質の育成】のための役割をしていた。く看護師の経験の伝承>では、手が拘縮しないように、リハビリしたらよいですね。それが看護なんよ。あなたが考えてせんといけんのよとく看護とは何かを話す>をしていた。看護師長さんがシーツ交換をするときに、右利きか左利きか聞いてくださり、一緒にペアを組む方のことを考えてシーツ交換をされていましたとく先輩

看護師のモデルの継承>として、他者を気づかうことの大切さを教えて【看護観を育成】していた。『共に看護の意味を考える』ではなぜそう考えたのか思考確認>から【関心・体験の意味の明確】をしていた。学生と患者との会話から患者からの気づきや学びを聴く>>患者からの反応を聴く>歩いても会話が弾む、息がはずむ、汗ばむ、脈拍がわからなくても身体感覚とかわかりませんかと患者についての質疑応答>などを学生から聴いて【反省的思考の形成】に向けた関わりをしていた。『看護実践に向けた支援』では、原発性肝がんを受け持っている学生に対して、ひっかき傷や体がかさかさしていたでしょう。落屑が落ちていたでしょう。しわがたくさんできて

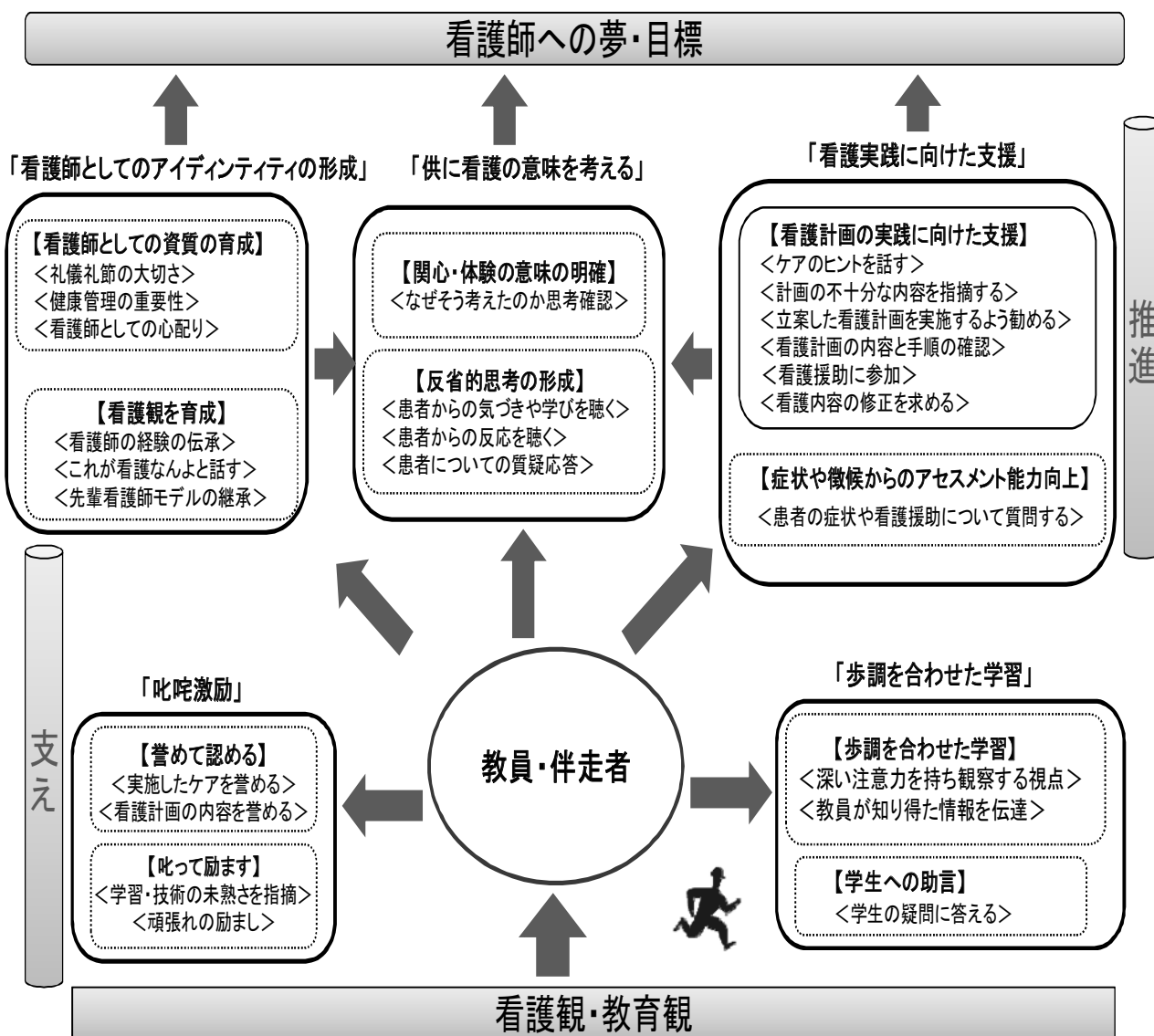
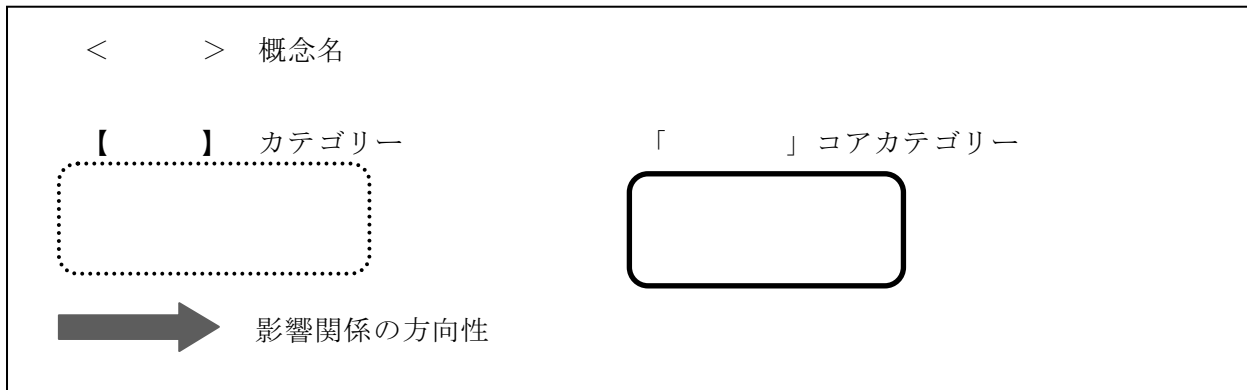


図2 臨地実習の教授活動「教員の伴走者」モデル

(註) 図の読み方は以下の通りである。



いたでしようとか受け持ち患者の症状やケアについて質問する>といった【症状や徴候からのアセスメント能力向上】になるような関わりをしていた。<学生の疑問に答える>では【学生への助言】として、例えば外食の時にもっていけるようなカロリーハンドブックとないのですかとケアのヒントを話す>や今日の計画で足浴があがっていないけど<計画の不十分な内容を指摘する>よう指導をしていた。術後口腔ケアを忘れてることが多いから、すぐにしてあげた方がいいですねとか立案した看護計画を実施するよう勧める>をしていた。洗浄器に、お湯を入れてトイレで石けんのガーゼをもって洗ってもらう。洗浄器のお湯では足りないから準備して物品を渡してあげたりしてくださいとか看護計画の内容と手順の確認>をしてから学生と共に<看護援助に参加>していた。術後の患者に対して、対象の状態を考えて足浴しないと術直後でやっと座れる状況で清拭するのはどうしたらよいか考えないといけませんねとか看護計画の修正を求める>といった【計画の実践に向けた支援】をしていた。

経験豊かな教員は、看護観と教育観に支えられて、学生と共に看護師への夢・目標に向かって教授活動をしていたことが示唆された。臨地実習での教員の教授活動は、看護観と教育観に支えられており、学生のそばに寄り沿いながら、看護師への夢・目標に向けて伴走者としての役割をしていることが浮き彫りになった。

## V. 考 察

この臨地実習の教授活動の「教員の伴走者」モデルは、臨地実習の教授活動が明らかになり、教員の役割が明確化される。教員の臨地実習での教授活動の指針となり、教授活動の評価としても活用できる。さらに、臨地実習で指導に携わる新人看護教員の教授活動の指針として活用し、教員の教育に役立てることができる。

学生の指導がうまくいかないときや学習成果が得られないときに、学生の問題と共に教員の教授活動を見直すことができる。

下記に本研究で示された5つの教授活動についてそれぞれ考察を述べる。

### 1. 「叱咤激励」

教員は学生に対して、学習不足や技術の未熟さを指摘していた。ケアされる者はケアす

る者の存在に反応するとあるように、教員の学生への関わりが学生の学びに影響するであろう。

教員は「ただ単に優しいだけではなく、時に厳しく叱咤激励しながら、学生の思いをしっかり受けとめる温かい人間的な関わりが必要である。教員は先輩看護師として学生と共に考え、悩み、喜びながら、伴走者としての役割を担っていると考えられよう」<sup>7)</sup>。教員は学生と寄り添い、ときには叱咤激励しながら、学生と協働的な学習を積み重ね相互成長できるプロセスを歩むことが必要であると考ええる。

## 2. 「歩調を合わせた学習」

教員は学生のひとり一人の学びの進度に合わせて、指導をしていた。ベナーはケアする者の態度が、「一つの自己から他者に全面的に伝わることであり、それは個から二者関係(duality)へ、二者関係から新しい個へ、そして新しい個から新しい二者関係へと至る連続的な変容である」<sup>9)</sup>と述べている。また、教える側と学習する側のやり取りには高度の技能が必要であり、学習を受け入れるタイミングを判断すること、すなわち教育とコーチングの機能の重要性を述べている<sup>10)</sup>。学生ひとり一人の学習段階がどこにあるのか、教員は学生の状況に合わせた教育をしていくことが大切である。

## 3. 「看護師としてのアイデンティティの形成」

教員は、看護師としての礼儀礼節の大切さや健康管理の重要性や患者への心配りを教えていた。教師は学生との相互作用の中で、何が看護で、何が看護でないか、学生が探求していけるような力を育む<sup>11)</sup>ことができるように支援することが大事である。学生は、臨地実習を通して、患者との関わりや看護師との関わりから看護とは何か、看護師とは何かを学んでいくのである。看護を大切に思い、ほんとうに看護に生きがいを持って情熱を燃やす人を育てる<sup>12)</sup>ことが、教員の役割であり努力すべき点である。優れた看護実践能力を後輩である学生に伝えていくことにより、看護の意味や価値を学生が自ら気づいていくことができるであろう。

教員は看護が好きで、看護への情熱と愛情を感じる<sup>13)</sup>ことができ、看護を自分の言葉で語れることが大切である。そのためには、自由に語り合える雰囲気づくりが重要である。

## 4. 「共に看護の意味を考える」

臨地実習では、その時々学生が「看護」を経験しているかどうかを読みとることが重要である。学生がその時、その場で経験していることを「看護」として意味づけを支援するのが、教員としての役割として重要である。学生が考えたことを、なぜそう考えたのか、なぜその援助が必要なのかを、学生に問いながら、学生自身が気づくことができるようにしていくことが大切である。そのためには、看護であること、看護でないことを考えながら、その人にとっての看護を考えられるように時間と場を意図的につくる必要がある。教員は、ひとり一人の学生に関心をもち十分な関わりをもつようにしなければならない。

## 5. 「看護実践に向けた支援」

看護実践には、状況を予測し判断することができる深い専門的知識と行動力・高い技術とケアリングが必要である。看護は、対象である患者を全人的にみて援助していかなければならない。そのためには、対象を身体的・精神的・社会的な面からみなければならない。



援助の専門職は、自分の職業についての技術や知識にたけているだけでなく、さまざまな対人関係上の課題や要求に対処する高度の対人関係能力やコミュニケーション能力をもっていなければならない。学生は、知識が不十分であり看護技術が未熟であることが多く、学習も不足している。教員は、学生が看護実践できるように、受け持ち患者の情報を知り、教員自身も患者とよい人間関係を築くようにすることが必要である。さらに教員の看護実践能力を高めていくように努力しなければならない。

教員は、学生が看護実践をするとき、ケアを後押しする温かい言葉をかけることにより、学生は患者にとってよい看護と認識でき、看護を推し進める関わりになると考えられる<sup>14)</sup>。

## VI. 結語

臨地実習での教員の教授活動は、看護観と教育観に支えられており、看護師への夢・目標に向けて伴走者としての役割をしていることが浮き彫りになった。経験豊かな教員と新人教員の両者にとって伴走者モデルは、よりどころとして役に立つことができるであろう。臨地実習での教員の教授活動は、新人教員が教授活動をする上でモデルを参考にすることができる。

教授活動は、教員の能力に大きく左右されることが考えられ、教員自身が自己の教授活動を振り返ることが必要である。今後、教員の教育実践能力の向上に向けて、教育方法が検討されていくことが課題であろう。

## 文 献

- 1) 田村美子, 白木智子, 進藤美樹他 (2004) : 看護学生が臨床指導者から受ける否定的ケアリング体験, 看護教育, Vol145 No9, p751.
- 2) 渡部洋子, 相馬朝江, 赤松弥生他 (2008), 臨地実習指導における教員の教育的省察－看護教員の実習指導能力向上への取り組み－, 上武大学看護学部紀要 第4巻, p53.
- 3) 杉森みど里他 (1992) : 看護学実習の授業構造の分析, 千葉大学看護学部紀要 14, p3-4.
- 4) 猪上広美 (2004) : 看護教員に求められる能力と資質形成に関する研究-文献研究を中心に-, 教育と職業.
- 5) 木下康仁 (2003) : グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践, 弘文堂.
- 6) 西條剛央 (2007) : SCQRM ベーシック編 ライブ講義質的研究とは何か, 新曜社.
- 7) 西條剛央 (2007) : SCQRM アドバンス編 ライブ講義質的研究とは何か, 新曜社.
- 8) パトリシア・ベナー監訳井部俊子 (2005) : ベナー看護論 新訳版初心者から達人へ, p12, 医学書院.
- 9) パトリシア・ベナー, ネル・ノディングス, スザンヌ・ゴードン編, 竹花富子訳 (1999) : ケアギビングー知と実践, 倫理, 政治力学に関する選集, 看護, 51 (6), p81.
- 10) 前掲書 8), p67-p69.
- 11) 藤岡完治, 堀喜久子編集 (2002) : 看護教育講座 3 看護教育の方法, 医学書院, p111.
- 12) 薄井担子 (1999) : 科学的看護実践とは何(上), 現代社, p23.
- 13) Anne Boykin & Savina O.Schoenhofer : 多田敏子・谷岡哲也監訳 : ケアリングとしての

看護-新しい実践のためのモデル-, 2005 ; 75, 西日本法規出版.

- 14) 田村美子(2008) : 臨地実習におけるケアリングの教育-教員と学生の相互行為場面からの分析-, 看護・保健科学研究誌, p48-49.